

## ニホンザルとチンパンジーの母子関係の比較

伊 谷 純一郎（京都大学理学部）

長谷川 真理子（東京大学理学部）

志賀A郡のニホンザルについて、(A)初産と(B)経産の母親間の母性行動の差を求めた。行動項目を記したチェックシートを用い個体追跡法により、両母子集団を比較した。(A)の母は子の扱いがぎこちなく子の反応も鈍いので、(A)の子は(B)の子に比しdistress call 発声の頻度が有意に高いなどの結果を得た。高崎山と嵐山のニホンザル若年層に数年前より出現した新行動型石遊びをビデオに記録し分析した。径2~10 cm の石を集め片手または両手で地面にころがし、その中のいくつかを

持って打ち合せて音を立てる。1~4才の両性に見られ；晴天の日、麦投与直後に多発、無表情でフラストレーションとは無関係、自己完結的、伝播性をもつが適応的意義は不明である。その他数種の新文化的行動型についても母子・血縁に沿った伝播・伝承機構の分析を進める予定である。本年度は時間の関係で、ニホンザルとチンパンジーについての平等性・不平等性の研究は観察資料の整理のみに終わった。